

J A 全国大会決議等から振り返る J A の福祉事業・活動

研究員 上田 晶子

目次

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. はじめに | 3. これまでの福祉事業・活動の取組み |
| 2. 第30回大会決議にみる福祉事業・活動 | 4. まとめ |

1. はじめに

第30回 J A 全国大会（2024（令和6）年10月18日開催）では「組合員・地域とともに食と農を支える協同の力～協同活動と総合事業の好循環～」が決議され、J A グループにおける次年度から3か年の方針が採択された。

決議において J A グループの存在意義は「協同活動と総合事業で食と農を支え、豊かなくらしと活力ある地域社会を実現する」ことにあり、具体的な実践・実現に向け、「食料・農業」「くらし・地域活性化」「組織基盤強化（J A 仲間づくり）」「経営基盤強化」「広報」の5つの戦略を提起している。

J A 全国大会のはじまりは、1952（昭和27）年10月に三重県で開催された第1回全国農協大会である。72年の歴史のなかで、第10回（1964（昭和39）年）より3年に1回の開催となり、第20回（1994（平成6）年）より「J A 全国大会」と改称し、現在に至っている¹。

本稿は J A 全国大会の歴史をふまえ、福祉事業・活動の振り返りを試みる。第30回大会決議における J A の福祉事業・活動の位置づけを示し、次にこれまで開催された大会決議の記述から、J A が運動体として福祉事業・活動に取り組んできた経緯を概観する。併せて事業体としての取組みを J A 全中「J A CARE NET」および農林水産省『総合農協統

計表』掲載データをもとにたどり、J A の福祉事業・活動が果たしてきた役割と意義について確認する。

2. 第30回大会決議にみる福祉事業・活動

前節で示した5つの戦略のうち、福祉事業・活動は「くらし・地域活性化」に含まれる。

戦略の基本的な考え方は「協同活動と総合事業を通じた組合員の願いの実現・課題解決により、組合員のくらしへの貢献、地域社会の活性化・地域コミュニティの維持による地域社会の持続的発展に貢献」することであり、以下4点の対応方向が示されている。

- ① 活動と事業を通じた組合員の豊かなくらしの実現（協同活動と総合事業の好循環）
- ② 協同活動の実践による協同組合としての強みの発揮
- ③ 総合事業による組合員の豊かなくらしの実現
- ④ 活動と事業を通じた地域社会の活性化・地域共生社会の実現

4つの関連を図示したのが（図1）である。

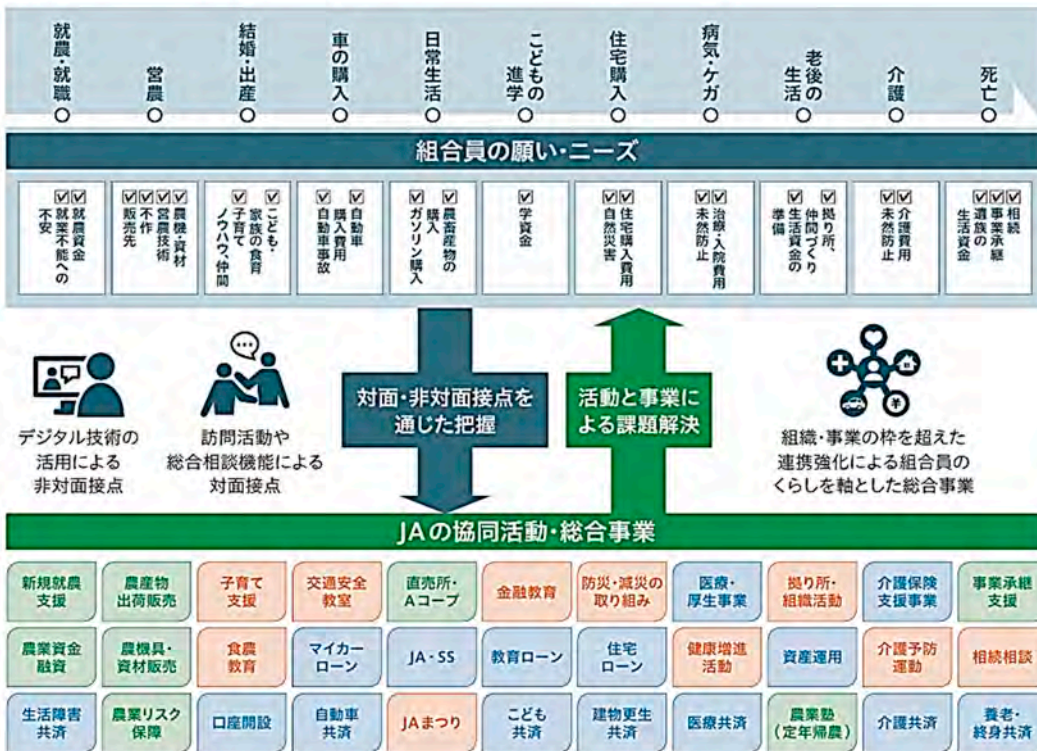
①では、組合員の生涯にわたり、日常生活やライフイベントに最適な協同活動・総合事業を提供する「組合員のくらしを軸とした事業・活動」（図2）を提起している。

1 J A グループウェブサイト「J A 全国大会のあゆみ」<https://org.ja-group.jp/jataikai/history/>（2024年11月25日閲覧）

(図1) 暮らし・地域活性化戦略の実践による組合員と地域社会への貢献



(図2) 組合員の暮らしを軸とした事業・活動



(出典) (図1) (図2) とも、JAグループ『第30回JA全国大会決議 組合員・地域とともに食と農を支える協同の力〜協同活動と総合事業の好循環〜』2024年10月18日 p.23

JAグループウェブサイト

https://org.ja-group.jp/pdf/jataikai/jataikai_resolution_30.pdf

②と③ではJ A・組合員組織による協同活動とJ Aの広範囲にわたる総合事業との関連、④では地域社会の維持・活性化と生活インフラ機能としての役割が組合員のみならず地域社会への貢献につながることを示している。なお決議では、行政や他の協同組合や団体・企業との連携にも触れ、J Aのみで完結させる取組みではないとしている。

3. これまでの福祉事業・活動の取組み

本節では運動体・事業体としての側面からJ A福祉事業・活動を振り返る。

(1) 運動体としての側面

これまで開催された大会において、現在の福祉事業・活動につながる決議を概観したのが(表)である。以下に主な大会決議を示す。

① 生活改善への取組み(第9回)・生活面活動の強化(第10回)

高度経済成長期は電化製品・自動車の普及に象徴されるように重化学工業が発展し、国民の生活に変化を及ぼした。農業の外部環境の急速な変化により、農協活動は農業生産のほか生活改善にも重点が置かれるようになった。

第9回大会では「生活改善運動の積極化についての決議」がなされ、生活面の取組みとして「衣食住の改善、厚生事業の拡充による健康管理、農村娯楽の充実等」を掲げた。

続く第10回大会決議では、農協運動の刷新強化の一環として「地域ならびに組合員の実態に即し、生活面活動を強化する」ことが組み込まれた。そしてこれらの活動を推進する担い手として農協生活指導員が養成された。

② 「生活基本構想」(第12回)

1970年代に入り、経済発展と農業近代化の影で生じた公害や交通事故の増加により、農村の生活環境の悪化が懸念された。協同組合として組合員の生活を守り、明るい農村地域社会の建設を目指し「生活基本構想―農村生活の課題と農協の対策―」が策定された。

「生活基本構想」では農村生活の課題に対し農協が果たす役割と実施すべき対策として「老人の福祉向上と子供の健全育成を図る活動」など9つの活動²が提起された。

「生活基本構想」は以後農協生活活動の展開に際し基本的な考え方となったが、活動の取り組み方については「農協生活活動基本方針」(第15回)、「農協生活活動基本方針」(第17回)を通じて都度見直しが行われてきた。

③ 「J A綱領」の制定(第21回)

1990年代はバブル経済崩壊により経済が停滞し、少子・高齢化が進んだ時期である。農村地域では高齢化が都市部より20年先行していることから高齢者対策は急務となり、1992年の改正農協法施行により高齢者福祉は事業として位置づけられた。そして2000年の公的介護保険開始に向け、J A独自にホームヘルパーを養成し、ボランティアを「助けあい組織」として組織化することで、介護の担い手を家族にとどめずに社会化していった。

J Aグループが発足50年を迎えた第21回大会では「J A綱領」が制定された。綱領ではJ Aが農業と地域社会に根ざした組織として、農業はもとより、食や緑や水資源、環境・文化・福祉の実践や学習を通じて地域社会とともに歩む存在であることを明らかにした。

2 9つの活動は以下の通り。(1)適正な情報の確保と教育・相談活動 (2)健康をまもり向上をはかる活動 (3)老人の福祉向上と子供の健全育成をはかる活動 (4)危険にそなえ、生活基礎をかためる活動 (5)快適な生活環境をととのえる活動 (6)消費生活をまもり向上をはかる活動 (7)生活をたのしみ文化を高める活動 (8)適正な就業機会を確保する活動 (9)適正な資産管理をはかる活動

(表) 全国農協大会・JA全国大会決議にみる福祉事業・活動

回	大会開催年	大会決議にみる福祉事業・活動
1	1952 (昭和27)	—
2	1953 (昭和28)	農協事業強化に関する決議 (医療事業)
3	1955 (昭和30)	農協事業の拡充強化に関する決議 (保健医療事業)
4	1956 (昭和31)	組合金融機能の刷新強化に関する決議 (組合員の営農・生活の維持改善)
5	1957 (昭和32)	—
6	1958 (昭和33)	—
7	1959 (昭和34)	—
8	1960 (昭和35)	体質改善運動の推進に関する決議 (生活向上のための体制整備)
9	1961 (昭和36)	生活改善活動の積極化についての決議
10	1964 (昭和39)	農協運動の刷新強化に関する決議
11	1967 (昭和42)	—
12	1970 (昭和45)	生活基本構想：農村生活の課題と農協の対策
13	1973 (昭和48)	第2次全国総合3か年計画：くらしと健康を守る活動の積極的展開
14	1976 (昭和51)	協同活動強化運動の推進に関する決議
15	1979 (昭和54)	農協生活活動基本方策
16	1982 (昭和57)	—
17	1985 (昭和60)	農協生活活動基本方針
18	1988 (昭和63)	魅力ある地域社会の創造を目指す対策 組合員の生活ニーズに総合的に対応しうる事業の展開
19	1991 (平成3)	農業・農村振興を基本とした「快適なわがむら・まちづくり」 生活総合センター機能整備・強化と地域環境保全への取り組み
20	1994 (平成6)	協同活動の強化と地域づくりの推進：快適なくらしと地域づくりの推進 地域に開かれた高齢者福祉活動の推進
21	1997 (平成9)	○農村の活性化と地域社会への貢献 地域にひらかれた生活活動・高齢者福祉活動の推進 ○「JA綱領－わたしたちJAのめざすもの－」の制定
22	2000 (平成12)	「農」と「共生」の地域社会づくり 老後を安心しておくれるJAの総合的な高齢者対策の展開
23	2003 (平成15)	協同活動の強化による組織基盤の拡充と地域の活性化 安心して豊かなくらしづくり
24	2006 (平成18)	安心して暮らせる豊かな地域社会の実現と地域貢献 福祉と健康を核とした「高齢者」の生活支援
25	2009 (平成21)	JAの総合性発揮による地域の再生 「JAくらしの活動」の推進による新たな協同の創造
26	2012 (平成24)	豊かで暮らしやすい地域社会の実現にむけた実践事項 JA支店を拠点に地域コミュニティの活性化に向けたJA地域くらし戦略の実践
27	2015 (平成27)	「地域の活性化」への貢献：総合事業を通じた生活インフラ機能の発揮 JAくらしの活動を通じた地域コミュニティ活性化の推進
28	2019 (平成31)	連携による「地域の活性化」への貢献 ①JA総合事業を通じた生活インフラ機能の発揮 ②JAくらしの活動を通じた 地域コミュニティの活性化 ③地域の多様な組織との連携強化による役割発揮
29	2021 (令和3)	持続可能な地域・組織・事業基盤の確立 ①組合員の拡大と「アクティブ・メンバーシップ」の確立 ②女性・青年の活躍 推進 ③生活インフラ機能の発揮 ④連携強化による地域活性化
30	2024 (令和6)	くらし・地域活性化戦略

(出典) 全国農業協同組合中央会「全国農協大会 (1～19回)」「JA全国大会 (20～30回)」決議をもとに筆者作成。

④ 「JAくらしの活動」の推進（第25回）・
「地域くらし戦略」（第26回）

第25回大会では、課題を高齢者生活支援、食農教育、環境保全、子育て支援、市民農園、田舎暮らしの6項目に絞った「JAくらしの活動」の推進による新たな協同の創造が決議された。特に食農教育については、2005年の食育基本法施行を受けての取組みである。

さらに第26回大会では「地域くらし戦略」を柱の一つとし、支店等を拠点に組合員・地域住民のくらしのニーズに応え、JAくらしの活動とJA事業を通じて地域コミュニティの活性化を目指すこととなった。

(2) 事業者としての側面

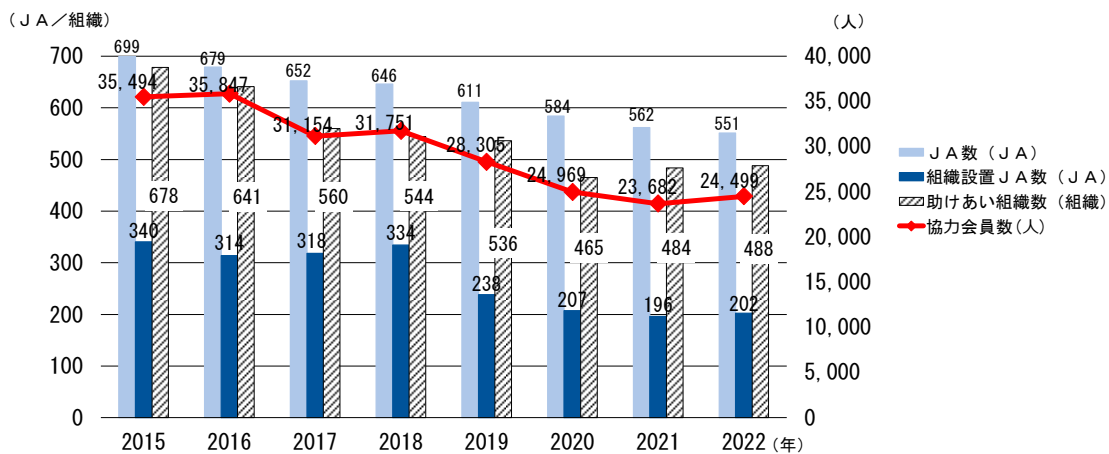
本項ではJA全中によるJAの高齢者福祉事業・活動に関するサイト「JA CARE NET」掲載データから「JA助けあい組織」と「JA介護保険事業」について、取組みの推移を示す。

併せて農林水産省『総合農協統計表』のデータをもとに、福祉事業・活動に関する取組みとして「老人福祉施設」の推移を示す。

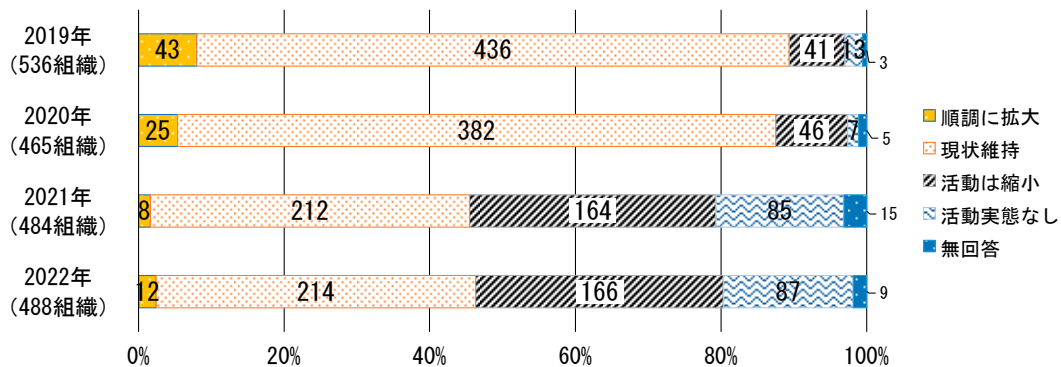
① JA助けあい組織（図3・4）

JA助けあい組織の主な活動は、ミニデイサービスや施設ボランティア等、高齢者を対象とした生活支援サービスから学習活動まで

(図3) JA助けあい組織 設置JA数・組織数・協力会員数



(図4) JA助けあい組織 活動の状況



(出典) (図3) (図4) とも、JA全中「JA CARE NET：JAの高齢者福祉事業・活動」<https://www.ja-care.net/tasukeai/>等をもとに筆者作成。

※ 設置JA数・組織数・協力会員数は各年とも3月末現在（JA全中調べ）。JA数は4月1日現在。

多岐にわたる。

高齢者福祉を目的としたボランティア活動の推進については1985（昭和60）年の第17回全国農協大会で決議された「農協生活活動基本方針」まで遡る。以後の大会においても、主要な福祉活動として位置づけられてきた。

2022（令和4）年3月末現在、202JAにおいて助けあい組織が設置されている。近年協力会員数は減少しており（図3）、コロナ禍の影響により活動の縮小がみられた（図4）。

② JA介護保険事業（図5）

2000（平成12）年の介護保険制度の開始とともに、JAは介護保険事業に参入した。

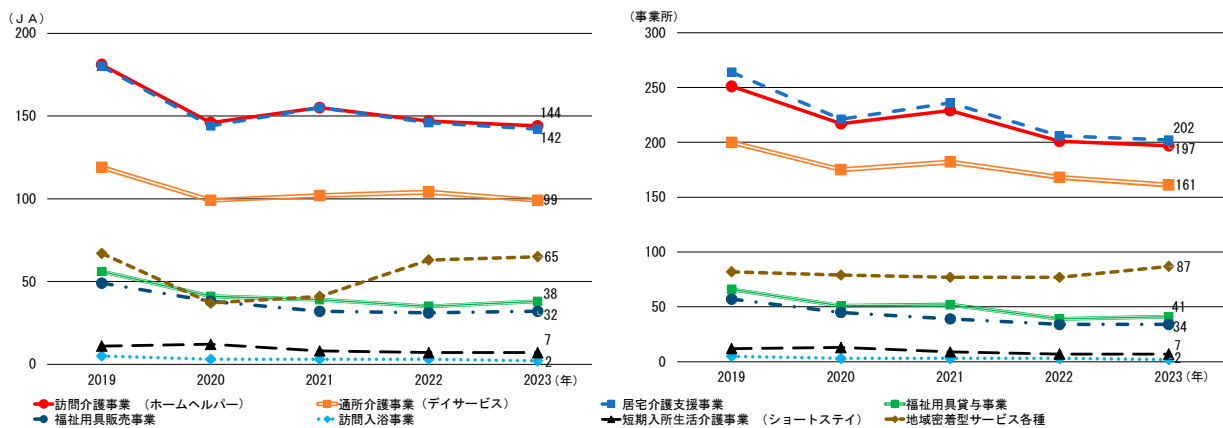
2023（令和5）年4月1日現在、訪問介護（ホ

ームヘルパー）は144JA197事業所、居宅介護支援は142JA202事業所、通所介護（デイサービス）は99JA161事業所、小規模多機能型居宅介護等の地域密着型サービスは65JA87事業所で展開している。しかし近年実施事業所数は減少傾向にある。ほかに福祉用具貸与・販売、ショートステイ、訪問入浴等の事業を通じて、介護を必要とする組合員や地域住民、介護を行う家族を支援している。

③ 老人福祉施設（図6）

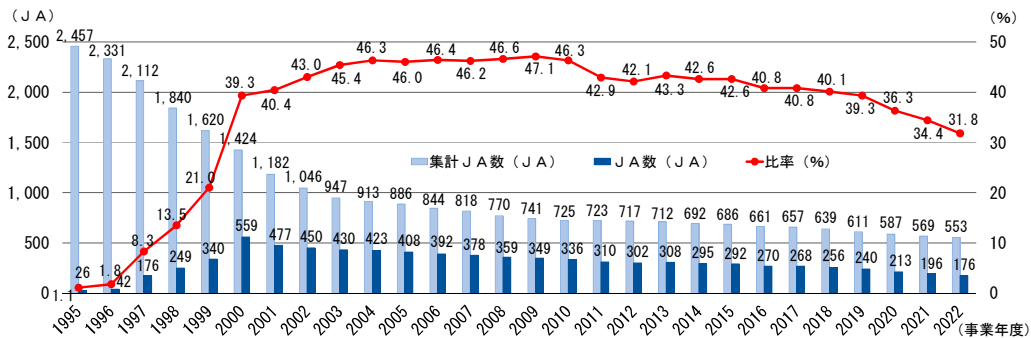
『総合農協統計表』においては、「その他の事業（保健・生活文化）」として老人福祉施設が掲載されている。用語の定義は明記されていないが、老人福祉法第5条の3によれば

（図5）JA介護保険事業 事業種別実施JA数および事業所数（各年4月1日現在）



（出典）JA全中「JA CARE NET：JAの高齢者福祉事業・活動」<https://www.ja-care.net/kaigo/>等をもとに筆者作成。

（図6）「老人福祉施設」実施JA数・比率



（出典）農林水産省『総合農協統計表』1995（平成7）～2022（令和4）事業年度をもとに筆者作成。

「老人デイサービスセンター、老人短期入所施設、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、老人福祉センター及び老人介護支援センター」といった施設を指す。

集計が始まった1995（平成7）事業年度は1.1%の取組み比率であったが、介護保険制度が開始される2000（平成12）年に向けて急増し、現在は約3割の取組みとなっている。

4. まとめ

筆者は拙稿³にて、JAの厚生事業をはじめ複数の事業が高齢者福祉事業・活動に携わってきたこと、そして共済事業においては健康管理・健康増進、交通事故防止等を含む、高齢者にとどまらない幅広い福祉サービスに取り組んできたことについて述べた。

本稿ではこれまでの全国農協大会・JA全国大会の決議を振り返ったが、高度経済成長のなかで変貌を遂げる農村地域において、組合員・地域住民の生活をまもる活動として、生活に不可欠な設備やサービスを、地域の事情やニーズに合わせて提供する役割を果たしてきた。人口の高齢化が進行するなかで、高齢者対策の必要性が高まり、1990年代以降の高齢者福祉事業・活動につながっていった。その一方で、生活に関する取組み方針がほとんど示されることなく21世紀を迎え⁴、その後「JAくらしの活動」として再整理された。

組合員数の推移についていえば、2009（平成21）事業年度の『総合農協統計表』では、准組合員数が正組合員数を上回った⁵。准組合員の参加により組合員総数も増加したものの、第30回JA全国大会決議の情勢・課題認識のなかでは、組合員総数が近年減少に転じ（図7）、JAの組織・事業基盤の弱体化への懸念が示された。

第30回JA全国大会決議では、組織基盤を強化すべく、本稿冒頭で示した5つの戦略のうち「組織基盤強化戦略（JA仲間づくり戦略）」にて、JAのメンバーとしての正組合員・准組合員との関係を強化すると同時に、地域住民などと新たな関係をつくり、組合員数の維持拡大を図ることを目指している（図8）。

この戦略はあくまでも「都市農村交流」「食農教育」を接点とした「農業振興」の担い手となることを目的としている。しかしJAの事業・活動の利用については、一部制約はあるものの、地域住民にも開かれている。

前節で示したように、JAは事業体として、老人福祉施設の設置・運営や介護保険事業を通じて、地域のインフラとしての役割を果たしてきた。そしてボランティア活動を推進し、高齢者福祉を主とする地域貢献活動に取り組んできた。

農業振興に限らず、福祉事業・活動もJAへの参加の契機となりうる。JAの諸事業・活動に多様な地域住民が参画することで、地域社会の維持・活性化につながっていく可能性があることに意義がある。ひいては、地域社会の多様な主体との連携にもつながってゆくとも考えられる。

（参考文献）

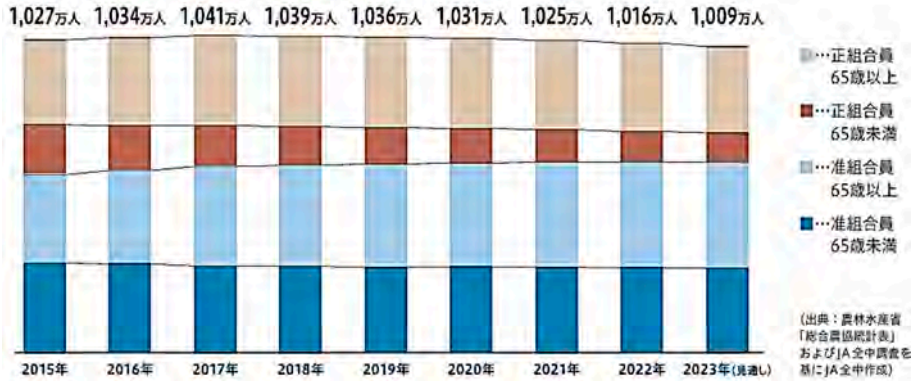
- ・全国農協大会決議（第1回（1952年）～第19回（1991年））
- ・全国農業協同組合中央会『生活基本構想』全国農業協同組合中央会・1970年
- ・全国農業協同組合中央会『農協生活活動基本方針』全国農業協同組合中央会・1979年
- ・全国農業協同組合中央会『農協生活活動基本方針』全国農業協同組合中央会・1985年
- ・JA全国大会決議（第20回（1994年）～第30回（2024年））
- ・全国農業協同組合中央会『農業協同組合年鑑』1950～1994年版
- ・農業情報調査会『年表・図説で見る農業・経済・金融・JAグループ歴史と現況 2023～24年版』農業情報調査会・2023年3月
- ・農林水産省『総合農協統計表』1995（平成7）～2022（令和4）事業年度
- ・北川太一『新時代の地域協同組合：教育文化活動がJAを変える』家の光協会・2008年8月
- ・JA共済総合研究所『協同組合による地域貢献：JAの生活支援の活動から考える地域づくり』（令和4年度JA共済総研セミナー講演録）JA共済総合研究所・2023年7月

3 上田晶子「JAの福祉事業・活動に関する調査研究の軌跡」『共済総研レポート』No.190 2023年12月 pp.12-17

4 北川太一『新時代の地域協同組合：教育文化活動がJAを変える』家の光協会・2008年8月 p.75

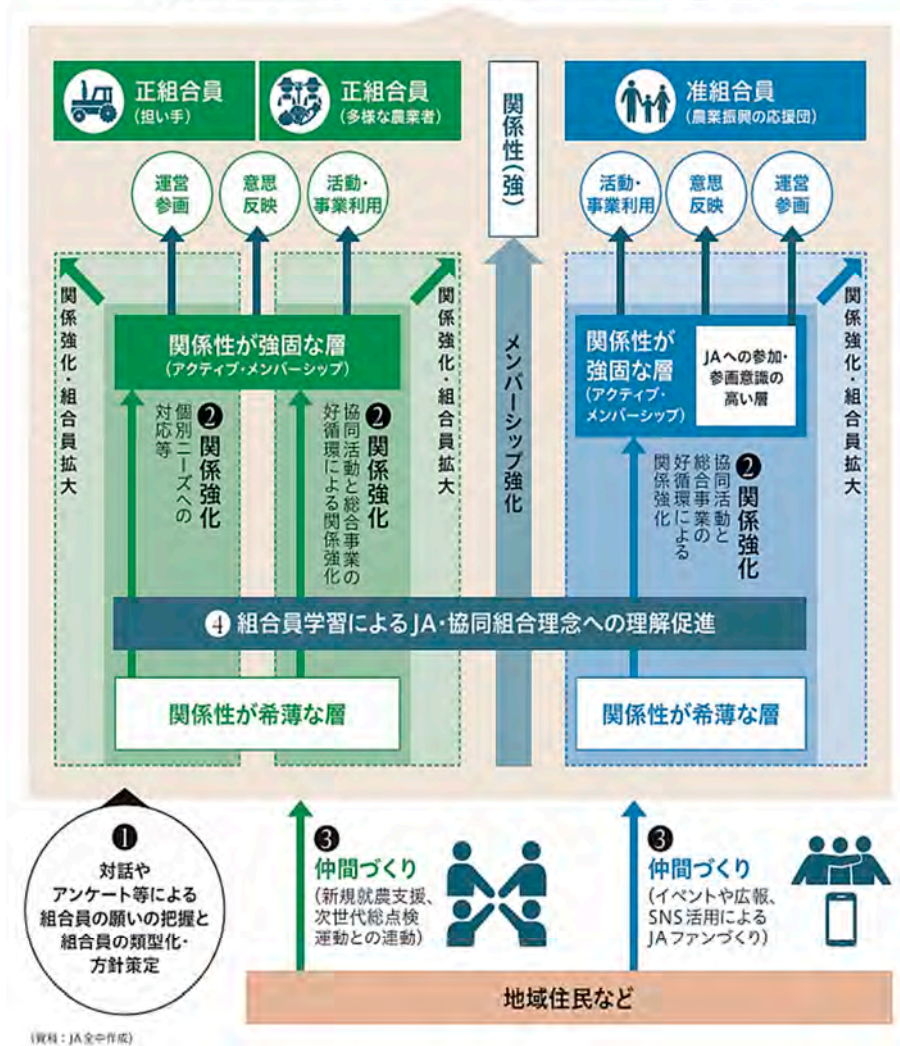
5 農林水産省『総合農協統計表』2009（平成21）事業年度では、正組合員の個人・団体の合計数は4,775,204、准組合員の個人・団体の合計数は4,804,237となり、初めて准組合員の合計数が正組合員の合計数を上回った。

(図7) 組合員数の推移 (年齢階層別)



(図8) 組織基盤強化戦略全体像

JAの仲間づくり(関係強化、組合員数の維持・拡大)



(出典) (図7) (図8) とも、JAグループ『第30回JA全国大会決議 組合員・地域とともに食と農を支える協同の力～協同活動と総合事業の好循環～』2024年10月18日 p. 8 およびp. 25